

「歴史から学ぶ ー資源問題と恐慌ー」

アメリカの金融危機の影響が、これから先どのように世界経済に波及していくのか。日本への影響がどれほどのものになるのか。なかなか先が見えにくい最近の経済状況について考えるために、今回のセミナーでは4名の講師をお招きして、経済史の側面から資源の問題と恐慌について考えてみたいと思っています。

現在、釧路市では日本で唯一商業採炭を行っています。1920年代の不況の時代に、当時最大の石炭販売商社であった三井物産はどのように対応してきたのか。戦後の日本の天然資源は、どのような課題の下で利用されてきたのか。あるいは、戦前の炭鉱会社での人事制度にはどのような特徴があったのか。そして最後に、日本が過去最も貧乏だった1920年代の恐慌とはどのようにして引き起こされたのか。というそれぞれの視点からアプローチしていきたい。

と き： 2008年 **11/28** (金)・**29** (土)

28日/16:30～18:00 18:00～19:30
29日/ 9:00～10:30 10:30～12:00

ところ：

釧路公立大学1階 第2会議室
(釧路市芦野4丁目1番1号)

28日(金)

16:30～18:00 **北澤 満 氏**(九州大学大学院経済学研究科准教授)

「戦間期における三井物産の石炭販売 ー三池炭を中心にー」

18:00～19:30 **島西 智輝 氏**(立教大学経済学部助教)

「天然資源利用率の向上と環境問題 ー高度成長期日本の環境経済史ー」

29日(土)

9:00～10:30 **市原 博 氏**(駿河台大学教授・経済学博士)

「教育資格・職務能力開発と身分制度 ー戦前の電機と炭鉱を中心にー」

10:30～12:00 **武田 晴人 氏**(東京大学経済学部教授・経済学博士)

「大正バブルと昭和の恐慌 ー歴史に学ぶー」

参加料無料。お申し込みの必要はありません。ご自由にご来場ください。

《お問い合わせ先》

釧路公立大学地域経済研究センター

tel.0154(37)5325 fax.0154(37)5376

E-mail r-center@kushiro-pu.ac.jp

「歴史から学ぶー資源問題と恐慌ー」

九州大学大学院経済学研究科准教授 北 澤 満 氏

「戦間期における三井物産の石炭販売ー三池炭を中心にー」

明治当初、さしたる工業製品をもたない日本にとって、石炭は外国海運会社の汽船燃料炭として重要な輸出品になった。他方、三井財閥や三菱財閥などの財閥が形成されてくると、石炭は財閥の重要な収益源となっていた。三井物産は、同じ財閥系列下の三池炭のほか、他の炭鉱の石炭をも取り扱うことによって業績をのばしていく。両大戦間期（1920年代）という不況の時代に、三井物産の石炭販売にどのような変化が生じたのか、明らかにしていきたい。

【略歴】2003年名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程、同大学経済学研究科助手などを経て、2005年から現職。

【著書】「両大戦間期における三菱鉱業の炭鉱経営」（九州大学『経済学研究』2008年）、「第一次大戦後における石炭需要の変化と炭鉱経営の対応」（『エネルギー史研究』2002年）ほか。

立教大学経済学部助教 島 西 智 輝 氏

「天然資源利用率の向上と環境問題ー高度成長期日本の環境経済史ー」

天然資源はあらゆる財の原材料であり、その利用は経済発展と密接な関係を持っている。それゆえ、天然資源利用率の向上は一般に経済発展に正の寄与をすると考えられる。しかし、それは同時に自然環境への負荷を高めることもあることも見逃せない事実である。そこで本報告では、日本における石炭利用を事例として、石炭の採掘主体である炭鉱と石炭の消費主体である需要者の双方による取り組み、それがもたらした環境負荷、および環境負荷に対する需給双方の取り組みを実証的に検討する。

【略歴】2006年慶応義塾大学大学院商学研究科博士後期課程、立教大学経済学部助手を経て現職。

【著書】慶応義塾大学経商連携21世紀COEプログラム編『日本およびアジア地域におけるエネルギー市場の歴史分析』（共著）ほか。

駿河台大学教授・経済学博士 市 原 博 氏

「教育資格・職務能力開発と身分制度ー戦前の電機と炭鉱を中心にー」

戦前期の日本企業の人事制度は企業内身分制度を軸に構成されており、従業員は保有する教育資格を基準にそれぞれの身分に位置づけられていたと考えられてきた。しかし、この人事制度の運用実態は必ずしも明らかにされて来なかった。本報告は、電機企業（芝浦製作所）と炭鉱企業（三井炭鉱と北炭）を対象に、技術系の職員の教育資格とキャリアの関係を検討し、そこから得られるインプリケーションを考えたい。

【略歴】1984年一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程、北海学園大学経済学部講師などを経て現職。

【著書】『炭鉱の労働社会史ー日本の伝統的労働・社会秩序と管理ー』多賀出版1997年ほか多数。

東京大学経済学部教授・経済学博士 武 田 晴 人 氏

「大正バブルと昭和の恐慌ー歴史に学ぶー」

株価や地価の目を剥くような高騰に浮かれ、好調な企業収益に永遠とはいわないまでも長期に持続する繁栄を夢見ているとき、バブルの崩壊は突然やってくる。山が高かっただけに谷も深く、夢が膨らんだ分だけ地の底をうような日々が続くことになる。バブルがはじけ恐慌状態に陥ったことは、近代の日本でもたびたび繰り返されたことであつたが、その中で、1920年と29年の恐慌を素材にして、それがどのような条件で起きたのかをふりかえることを通して、今私たちが直面しつつある問題を考えてみたい。

【略歴】東京大学大学院経済学研究科博士課程、同大学社会科学研究所助手、同大学経済学部助教授を経て現職。

【著書】『仕事と日本人』ちくま新書2008年、『世紀転換期の起業家』講談社2004年、『日本経済の事件簿』新曜社1995年ほか多数。